

山紫水明



～京都府神道青年会35代会長から36代会長へバトン渡し～

第134号

事務局・会計局各次長 紹介

当会には会務運営を円滑にするために事務局並びに会計局が設置されています。それぞれの次長は局長からの指名により決まり、局長の補佐をする役職です。



事務局次長
室川 豊史 (平安神宮)
当会の充実した活動の補佐が出来るよう微力ながら務めさせていただきます。
また今回「最年少」ではあります、田中事務局長の懐刀として若い力を發揮し与えられた職務を全うしたいと思います。何卒宜しくお願い致します。



会計局次長
櫻井 徳子 (大石神社)
微力ながら会計局長、また京都神青のお役に立てるよう、精一杯務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

編集後記

六人部会長の下、新体制になり初めての『山紫水明』発行となりました。巻頭の表紙は、前会長であります櫻井監事から六人部会長へのバトン渡しの写真となっております。使われたバトンにはどのような物語があるのか、気になる方はぜひ六人部会長にお尋ね下さい。今まで編集されてこられた方々の足跡を拝見しますと、その時のこだわりや苦労が見え、大変勉強になつて居る次第でございます。

今回、『山紫水明』一三四号では、多くの方々に原稿の執筆のご依頼をさせて頂き、様々な「色」に仕上がっているのではないかと思います。皆様心が温まりますよう初めて表紙に「色」をつけさせていただきました。

今回の編集に際し、ご多忙の中、快く原稿の執筆にご協力を頂きました。誠に有難うございました。また、広報委員会では当会のホームページも更新いたしております。ぜひともご覧ください。

今後、多くの皆様のご協力の下、『山紫水明』の編集作業を進めてまいりたいと思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

〈広報委員会〉

『山紫水明』第一三四号

題字 頼新先生
編集 広報委員会
発行所 京都府神道青年会
発行日 平成二十九年十一月三十日
印刷 株式会社ユニティー



表紙
第一三四号 目次

新会長挨拶	1
新執行部・監事挨拶	3
新役員挨拶	4
皇太子同妃両殿下御奉送迎	5
平成二十九年定例総会並びに懇親会報告	6
平成二十八年定例活動報告	8
各委員会報告	10
近畿・中央報告	12
平成二十九年定例新入会員紹介	19
各次長紹介・編集後記	26
	28

就任のご挨拶



先ず以て謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をご祈念申し上げます。
 神宮におかれましては諸祭恙無く齋行されておられますこと誠に慶賀に存じます。

また昨年度は、当会創立六十五周年の節目の年を迎え、櫻井宣人前会長のもと記念事業を実施させて頂き、皆様方の格別なるご理解ご協力のお蔭をもちまして完遂できましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、此度、七月の平成二十九年定例総会をもって、前会長よりバトンを受け取り、京都府神道青年会第三十六代会長を仰せつかることとなりました。素より浅学菲才の身でございますので、歴代の会長を務めてこられた先輩方のようにうまくいかないかと感じてはおりますが、お引き受けした以上、少しでも近づけるように努力を惜しまず一歩一歩地に足をつけ誠心誠意、職責を果たしてま

会長 六人部 是充

いりたいと思います。

昭和二十六年六月、戦後の混乱のさなか、並々ならぬ努力と情熱をもって当会は設立されました。創立から現在に至るまでの六十五年余り、先輩方は様々な壁を乗り越え、京都神青の歴史と伝統を積み重ねてこられました。そしてそれは今我々に引き継がれました。先輩方の情熱と熱き想いを胸に、後進たる次の世代へと繋げていかなければなりません。そのためには多くの会員の参画が必要であることは言うまでもありません。会員の一人一人が自覚をもって、これからの斯界のため、奉務神社のため、自分自身のため、積極的な関わりを持って各事業に取り組んで頂くことをお願い申し上げます。

新たな体制がスタートいたしました。この二年間、微力ではございますが、京都府神道青年会の更なる発展のため会務運営に務めてまいりたく存じます。各社宮司様をはじめOB諸先輩、協賛業者の皆様、関係各位の皆様方には何とぞ倍旧のご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

新役員 挨拶

新執行部・監事 挨拶



広報委員長 北川 真喜子
(御嶽教末廣教会)
 「冷暖房完備」
 暑い日には涼風を届け、寒い時には皆様の心を暖めるそんな広報を目指して参ります。
 六人部会長のもと、役務を果たせるよう努力してまいりますので、何卒二年間宜しくお願い申し上げます。

事業委員長 杉原 淳一
(大原野神社)
 神道青年会の活動についてわからないことばかりではありますが、その意義を身を以て理解し、皆様と切磋琢磨してその務めを果たしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

教化委員長 中井 浩志
(伏見稲荷大社)
 初めての委員長ということではわからないことばかりではありますが、精一杯努めてさせていただきますので、宜しくお願い致します。

組織委員長 有持 圭祐
(長岡天満宮)
 この度、六人部新会長よりお声をかけて頂き、大変恐縮致しております。会員の皆様の「声」をうけて紙面の充実と情報の発信を行なっていくべく、微力ながら尽力させていただきますので、あたたかい目で見守っていただけるとありがたいと思っております。二年間という短い間ですが職責を全うしたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

副会長 高田 真之介
(護王神社)
 副会長という大役は初めての事ではあります。六人部会長の支え、神青会が参加したくなるような楽しい青年会にしていきたいので、よろしくお願い致します。

副会長 生寫 紀之
(大將軍八神社)
 六人部会長、他役員・会員の仲執持役として会の運営に邁進させていただきます。さて、ここで問題です。もう一人の生寫副会長と私はどのような関係でしょうか？

副会長 生寫 和顕
(平安神宮)
 この度このような大役を頂きました平安神宮の生寫和顕と申します。副会長に二人も生寫という事で、できる悪い方で覚えてもらえたらと思います。
 そのような者ですが六人部会長の始め皆様のお役に少しでもたてるよう精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。

事務局長 田中 博志
(石清水八幡宮)
 この度、事務局長を拝命致しました田中博志と申します。
 もとより浅学非才の身ではありますが、会長・役員・会員の皆様方にご迷惑をおかけしないよう全力を尽くさせていただきますので、二年間宜しくお願い申し上げます。



会計局長 畑中 秀皓
(伏見稲荷大社)
 この度、会計局長という大役を務めさせていただく事になり、大変恐縮しております。不慣れで行き届かないかと存じますが、精一杯努めて参りますので、ご指導・ご協力をお願い致します。

監事 竹内 政裕
(八大神社)
 楽しく有意義な会務運営の為、また諸先輩が築かれたものを次代へつぐむ為、微力ですがその任を務めさせていただきます。会員皆様の各活動への積極的なご参加ご協力をお願い致します！

監事 櫻井 宣人
(石清水八幡宮)
 前期会長として多くの方々へ戴いたお力を、今期監事としてお返しできるような微力ではございますが、精一杯努めたいと思っております。



渉外委員長 有島 昌延
(賀茂別雷神社)
 この度、渉外委員長を務めさせて頂くこととなりました。
 このような大役が務まるか不安ではありますが、お引き受けした以上は精一杯、努力してやり遂げたいと思っております。もとより浅学非才の身ではございますが、何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

親睦委員長 進藤 大長
(大石神社)
 会員同士の親睦をはじめ、多くの方々が互いに楽しく交流しあえる活動、また皆様のご希望に添った親睦行事を企画してまいりますので、二年間皆様の積極的なご参加お待ちしております。



皇太子同妃両殿下御奉送迎

学生の頃、サークル活動の一環として毎年、皇居はじめ東宮御所の清掃奉仕に参加させていただいておりました。その度に、ひとグループ毎に親しくお声を掛けて下さる東宮殿下に、天皇皇后両陛下と同様、ひとかたならぬお優しい雰囲気を感じた事を覚えております。

この度、皇太子殿下同妃両殿下の行啓に際し、京都駅並びに京都御所での御奉迎をご奉仕いたしました。京都駅では、流石に多くの方がお出迎えのために参集され、幾重にも連なる人垣の中、国旗を配ることに若干手間取りながらも、人々の歓声によりお出ましを実感いたしました。大宮御所では、生憎雨が降っていたこともあり、少人数でのお出迎えとなりましたが、謹んでご奉仕させていただきました。間近に両殿下のお姿を拝し、ただただ恐れ多くもあり、また大変光栄に思いました。

年間を通じて、天皇皇后両陛下の行幸啓をはじめ皇太子同妃両殿下の行啓、また各宮家の御台臨等、多くの機会に接することができ京都。日々皇室の弥栄、御安寧を祈る神職として、非常に恵まれた環境にいたることを実感した一日となりました。

(平安神宮 芹口明憲)



皇太子同妃両殿下におかれましては去る平成二十九年十月二・三日の両日に亘り、京都へ行啓に遊ばされ、当会からも、京都駅はじめ大宮御所、二条城、国際会館の各所にて、集まった人々に国旗を配り、皆様と共に御奉送迎を御奉仕させていただきました。

一日目、御入浴になられた両殿下は、まず元離宮二条城、その後一旦大宮御所にお立ち寄りの上、醍醐寺を御視察になられたと承っております。二日目には、国立京都国際会館において開催された「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」に御臨席遊ばされた後、京都駅より還啓されました。

国際会館では、両殿下が御出発になる頃には、お見送りのため治道には多くの人々が参集されておりました。京都府氏子連合青年会と当会の会員五名により国旗小旗をお配りし、治道の方々と共に御奉送申し上げました。人々に御手を振りお答えになる両殿下の御姿は誠に奥床しく、打ち振られる小旗の響きがより一層増したのが印象的であり、その音は、紅葉にはまだ早い宝ヶ池の木々の中、車列が見えなくなるまで絶え間なく続いておりました。今回、皆様と共に御奉送迎を御奉仕させていただけた事に、感謝いたしております。

(賀茂別雷神社 大西啓文)

皇太子同妃両殿下におかせられましたは、平成二十九年九月二日に東大寺大仏殿(奈良市)に於いて開催された「第三十二回国民文化祭・なら2017」並「第十七回全国障害者芸術・文化祭なら大会」に御臨席遊ばされました。

また九月三日の午前には、奈良県王寺町文化福祉センターにて開催された「王寺ハンドベル・フェスタ」第一部を、午後には、県文化会館(奈良市)に於いて開催された障害の有無に関わらず共に踊る「車いすダンス」の練習会を御視察なされました。

皇太子同妃両殿下は往路復路共に京都駅にて東海道新幹線と近鉄奈良線の御乗り継ぎをされる為、「日本会議・京都」の会員を中心に京都府氏子青年連合会会員、当会会員から両日共に七名参加のもと約二十名の「御奉送迎団」を結成し、新幹線と近鉄線改札内外にて御奉送迎に参集された方々に国旗小旗を配布し、共に御奉送迎させて頂きました。

(大將軍八神社 生寫紀之)



定例総会報告



平成二十九年七月四日午後六時より、京都東急ホテル二階「雅の間」において京都府神道青年会平成二十九年定例総会が開催された。

松大路和弘副会長による開会の辞に始まり、櫻井宣人会長による挨拶の後、宮城登志夫君が議長に選出され、資料に基づき議事が執り進められた。

先ず「創立六十五周年記念事業」に関する事業報告並びに、特別会計決算報告の件について説明があり承認。次に平成二十八年度活動報告の件についての説明があり、続いて決算報告及び監査報告が行われ承認された。

以上で、櫻井宣人会長以下執行部の任が解かれた後六人部是充新会長より新役員が上程され異議なく承認され、新体制へと引き継がれた。その後、平成二十九年活動方針(案)並びに活動計画(案)の件、平成二十九年予算(案)の件についての説明が行われ、可決された。

議事終了後、会員皆で会歌を合唱し心をひとつにした後、

懇親会報告



高田真之介新副会長による閉会の辞により定例総会は滞りなく納められた。

(平安神宮 綾小路有優)

定例総会に引き続き、京都府神社庁田中恆清庁長を始め、今年度より新たに会長に就任された京都府氏子青年連合会武本延美会長、OB会員、協賛業者各位にご臨席賜り懇親会が開催された。

開会に先立ちヤマタ基金贈呈式が執り行われ、六人部会長より田中庁長に目録が渡された。その後、六人部会長挨拶、新役員紹介、来賓紹介と続き、来賓祝辞では田中庁長よりご祝辞を賜り、武本会長による乾杯のご発声にて懇親会は進められた。

京都府神道青年会が推進している「3010運動」が実施のもと、料理を美味しく頂きながら、新OB会員紹介、新入会員紹介、親睦委員会による余興等、終始盛況の様子を見せていた。

閉会前にあたり、新OB幹事・仲尾宗泰先輩の先導により万歳三唱を皆で奉唱し、生寫和顕副会長による閉会の辞をもって閉会となった。

※3010運動

開会后約三十分間・閉会約十分前は自席着席にて歓談

(豊國神社 吉田武洋)

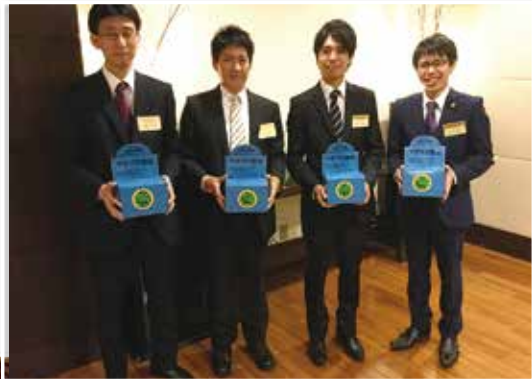


Table with columns: 年月日, 内容, 人数, 場所. Contains event details for the period from July to October.

Table with columns: 年月日, 内容, 人数, 場所. Contains event details for the period from April to October.

平成二八年度 京都府神道青年会活動報告書

自 平成二八年七月一日 至 平成二九年六月三〇日

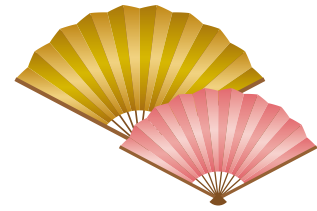
Table with columns: 年月日, 内容, 人数, 場所. Contains event details for the period from July to October.

Table with columns: 年月日, 内容, 人数, 場所. Contains event details for the period from April to October.

委員会報告

組織委員会

手書き体験 紙扇子



平成二十九年六月十四日、(株)とくのにて組織委員会主催研修会が開催された。参加者は五名と少なかったが、それぞれの画力を競い合いながら和気藹々と絵付け体験を行った。神社ゆかりの絵付けや、工房で用意していただいた見本をもとに絵付けを行うなど、思い思いに筆を執り、またたく間の九十分であった。途中、京扇子の歴史や製造過程のお話を伺い、扇子に関する理解も深めることができた。後日郵送で仕立てられた扇子が届き、絵付けの時点では納得のいく出来ではなかったものの、出来上がると「扇子」になり、思い出の品となった。

(大石神社 櫻井徳子)

『洛声』一一五号発行

組織委員会では会員の近況を報告する機関紙『洛声』一一五号を発行いたしました。

この『洛声』を通じて会員同士の情報の共有、親睦を図り、会員の組織力も強化していきたいと思えます。

これからも会員の皆様の声をうけて紙面の充実と情報の発信を行わない、皆様に楽しんでもらえる紙面になる様取り組んでまいりますので、情報提供のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。とっておきの情報をため込んでおられる会員の皆様、是非お近くの組織委員までお知らせ下さい。

(長岡天満宮 有持圭祐)



教化委員会

神社探訪

六月十日、昨年に引き続き第二回「神社探訪」を教化委員会主催で開催致しました。昨年より新しく始まった「神社探訪」。今回は、舞台を石清水八幡宮に移し、七名の学生の皆さんに参加いただきました。

当日は、三十度近い気温ではありませんでしたが、風のある気持ちの良い晴天で、男山の中に入ると汗がひくほど涼しく、山麓の二の鳥居頓宮からはじまり、中腹の松花堂昭乗ゆかりの宿跡を巡り、神仏習合などの石清水八幡宮ならではの歴史を感じ、学生の皆さんが頭と体と心で理解し、興味津々の顔つきで知的好奇心が満たされているのがよくわかりました。



男山を登りきり、御本殿にて正式参拝、続いて御本殿の案内、そして最後は、天皇后両陛下も





御親拝の際に御休憩になられたというお部屋での座談会と、とても貴重な三時間でした。

二年間の教化委員会締め括りとして、参加した学生の皆さんの満足した笑顔がみられたことが嬉しく、次期教化委員会の皆さんで「神社探訪」をより良い事業にしたいだけできるよう願っております。

(御霊神社 小栗栖 憲英)

鎮守の杜 お祭り体験

去る八月六日、教化委員会主催による「鎮守の杜 お祭り体験」が六人部会長の奉務神社である、向日神社に於いて開催された。

この事業は子どもたちを対象に地域の神社にお参りし、楽しい時間を過ごしてもらうことにより、日頃から神社に親しみを持って参拝してもらえようにつなげかけを作ることを目的として毎年開催されている。

当日は、参拝作法の説明の後、本殿にて正式参拝し、続いて六人部宮司様に向日神社の由緒や神社についての興味深いお話を頂いた。

教化委員会主催研修会

去る十月十八日、伏見稻荷大社・豊穰殿に於いて教化委員会主催研修会が開催されました。講師に鈴鹿可奈子先生、株式会社聖護院八ッ橋総本店専務取締役をお迎えし、「生き続ける企業を目指して」と題してご講演賜り、五十八名が参加いたしました。

元禄二年より続く聖護院八ッ橋は「味は伝統」を理念とし、「三百年後もおいしく愛されているのか」という姿勢を代々の当主が守り続けておられている事、またその為に大事にされている事として、お客様、社員同士、地域の方とのコミュニケーションが大切であると述べられました。



途中、先生がお持ち頂いた聖護院八ッ橋を実際に味わい、変わらぬ美味しさを感じつつ講義に耳を傾け、神社界においても共通するものを感じ、会員は各々、熱心に筆を走らせていました。

終わりに、鈴鹿可奈子先生は、「長い目で見てこれからも聖護院八ッ橋を守っていくために何が大事か考える。人と自分を大切に、感謝の気持ちを持ってはならない。」と締めくくられ研修会は納められました。

その後、境内に於いてスーパーボールすくいやヨーヨー風船釣り、射的など縁日の雰囲気を楽しんだ。台風接近の心配もあったが当日は天候にも恵まれ、二〇〇名を超える参加者のもと、大変な賑わいがあった。

(伏見稻荷大社 中井 浩志)



伝統継承の重要性、新しいことへの挑戦、またその必要性、我々神職も神道を後世に繋げていく事に責任を持ち日頃の社務をご奉仕しなければいけないと感じた研修会でありました。

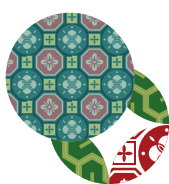
(城南宮 藤井 一徳)



事業委員会

猛暑の候、八月六日、高見株式会社様のご協力を得てフォトスタジオオマツモトにて恒例事業の一つである「七五三ポスター」の撮影を実施しました。

モデルには護王神社・高田真之介会員の子女 紫恵ちゃん(七歳女児)、白峯神宮・北村友湖会員の子女 康至くん(五歳男児)、豊國神社・吉田朋洋会員の子女 郁洋くん(三歳男児)、八大神社・竹内政裕会員の子女 梨夏ちゃん(三歳女児)の四人に努めて頂きました。



皆、とても行儀がよく、順調に撮影が進み無事終了することが出来ました。
 ご協力を頂きました子供達に感謝致しますとともに、日本の未来を担う子供達の健やかなる成長をお祈り致します。

(豊國神社 吉田朋洋)



渉外委員会

御嶽教青年部との交流会

去る六月十六日、渉外委員会主催研修会としての担当にて御嶽教青年部との交流会が開催され、御嶽教青年部からは御嶽教青年部長を始め十二名、当会より櫻井会長を始め十三名の会員が参加した。まずは、平成二十八年に御遷座百三十年を迎え現在平成の御修造を行っている護王神社を正式参拝し、本郷禰宜様より神社の御由緒等をご説明頂いた。

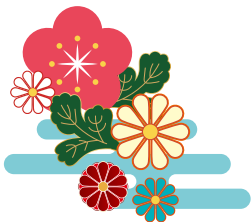


その後、修復中の御本殿の工事を請け負っておられる株式会社安井杵工務店の吉江様を講師にお迎えして神社の建造物の修復について研修会を行った。ご厚意により実際の御本殿工事現場へ入らせて頂き、現場を拝観しながら屋根の葺き替え工事の工程等

をご説明頂いた。

次に場所を「がんこ高瀬川二条苑」に移し、ご案内頂いた本郷禰宜様、吉江様にもご同席賜り、御嶽教青年部と二年ぶりの懇親会を開催した。

(賀茂別雷神社 有島昌延)



チャリティバザー

去る六月二十一日に紫陽花苑開園で賑わう藤森神社境内(拝殿)に於いて恒例となっている渉外委員会主催「チャリティバザー」が開催された。

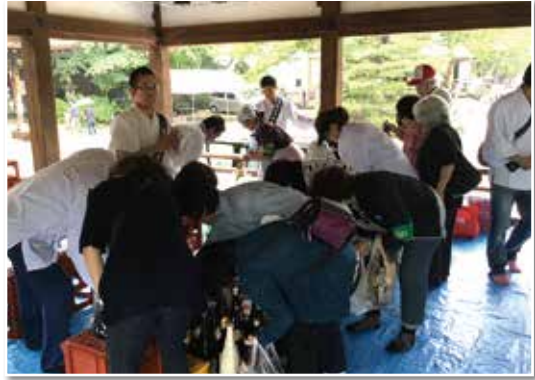
チャリティバザー前日までに六十社ちかくの関係神社、協賛業者の皆様からお寄せ頂いた品々が、藤森神社齋館へ集められた。このバザーの品は協賛業者より直接持ち込んで頂いた品や会員の手により集められた物であり、その数の多さに改めて、幾多の人々の苦勞や厚意が思い知られる。この集められた品に前日昼過ぎより十五名の会員により仕分け、値付けし、当日に備えた。



当日は、早朝より大雨が降りどれぐらいの方に来て頂けるのか不安の声がある中、品物の陳列を始めてみると開場を待ちわびている来場者が集まりはじめた。午前十時からの予定であったが、足元が悪いこともあり、少し時間を早めての開場となった。

会員一人ひとりがバザーの収益金が京都府を通じて交通安全推進事業に充てられる事を呼びかけ、趣旨を説明する場面や京都府神道青年会がどういった活動をしているのか説明をする会話、他愛もな

い会話で笑顔があり和んだ雰囲気で行われた。昼を過ぎたところから雨も止み、来場者が増え商品は徐々に減っていった。来場者の中には例年バザーに来場して頂いている方や気に入ったものを嬉しそうにされている方も見られた。その中でも特に神社関係者のバザーならではないものである酒類が人気であった。



全体を通して、本年も多くの方に来場していただき盛況の中バザーを終えることが出来た。会員においてもたくさんの方の来場者と関わり、貴重な体験になったのではないと思う。
最後に、境内をお貸し頂きました藤森神社様を始め、ご協力頂きました関係神社様、協賛業者様また関係各位に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。
(石清水八幡宮 林秀明)

親睦委員会

親睦BBQ大会

去る九月一日、親睦委員会主催によりMKボウル上賀茂にて親睦BBQ大会が開催され、六人部会長をはじめ当会会員や各位巫女

さん総勢五十一名が参加した。

受付を済ませ、各自指定された席に着き、会話を楽しんでいると進藤委員長の挨拶、そして六人部会長の乾杯で親睦BBQが幕を開けた。親睦委員会中心となり肉や野菜を調理し、久々に会えた友人と会話を楽しむ参加者、初めてお会いする人と交流を深める参加者など、全員楽しい様子であった。

中盤に差し掛かると、各テーブルで写真撮影を行い、どのテーブルが良い写真を撮れたかを競うゲームが実施された。遊具を使って写真を撮るグループや、肩を組んで撮影するグループなど、どのテーブルも笑顔で溢れている様子であった。

そして終盤には、写真撮影ゲームの結果発表が行われ、優勝したテーブルのメンバーには進藤委員長からの激励の言葉を頂き、最後には参加者全員での記念撮影、そして六人部会長による恒例となった「六人部締め」で幕を閉じた。

(石清水八幡宮 宮田雄生)



近畿地区報告

禊・鎮魂鍊成研修会

去る七月十日、十一日、神道青年会近畿地区連絡協議会の事業である「禊・鎮魂鍊成研修会」が奈良県神道青年会担当により、奈良県天理市の石上神宮にて開催された。

今回の研修会には、近畿各府県の神道青年会より二十五名の会員が参加し、当会からは六名が参加した。

御地域の清らかな空気の中で禊と鎮魂を行うにあたり、真剣なところも中で研修に臨んだ。普段の社務ではなかなか禊・鎮魂を行うことが難しい為、各々にとつて非常に貴重な体験となった。

しかし、初日は雷雨のため人命が関わることもあり禊は行われなかった。これも貴重な体験の一つではないかと思えた。また、午後八時からの勉強会では、石上神宮権禰宜道上昌幸先生による「神道行法について(鎮魂行法編)」と題しての講義を拝聴し、鎮魂の意義や種類などの理解を深めた。

そして、十一日の閉講式後には直会が行われ、終始和やかな雰囲気の中で、普段交流する機会の少ない他府県の会員との懇親を深めることができた。参加者一同にとつて、貴重な二日間となった。

(貴船神社 櫻井剛)



定例総会では平成二十八年度会務報告並びに決算報告がなされ、長谷川会長(大阪府神道青年会)から田中新会長(兵庫県神道青年会)にバトンが渡され、平成二十九年活動基本方針並びに事業計画が承

平成二十九年定例総会・研修会

六月五日、神道青

年近畿地区連絡協議会平成二十九年定例総会並びに研修会がホテル阪急インターナショナルにて開催された。

総会に先立ち研

修会では、講師に上方講師師四代目 玉田玉秀齋先生による講談『ウソかまきことか!? 四百年伝わる「大阪の陣」の物語〜難波戦記より 徳川家康の最後〜』をご披露頂いた。講談の中で講談というものの解説や、百年ぶりに復活した玉田玉秀齋の名跡についても講談ならではの口調でご説明頂いた。



認められた。
 その後の懇親会では翌日の野球大会の抽選がおこなわれ、京都府神道青年会は第一試合目大阪府神道青年会との試合に臨むこととなった。結果はいかに…

(御嶽教末廣教会 北川真喜子)

野球大会



六月六日万博記念公園スポーツの広場に近畿各地より有志があつまり甲子園顔負けの決戦の火ぶたが落とされた。

昨年優勝の大阪、安定した古豪の兵庫と京都、即戦力の若手が加入した奈良、滋賀、ダークホース和歌山と各県が優勝旗を狙う。

今年、稲本会員・溝脇会員というベテラン陣や、当会のエースとささやかれている石清水八幡宮梶会員など若手層が集結した。

まずは大阪神青との初戦。新婚のエース梶会員が先発で登板するも、制球と野手陣のエラーに苦しみ、大阪神青に失点を許す。溝脇会員がリリーフとして登板するも流れに乗った相手を止めることが出来なかつた。稲本会員の好走塁とヒット等で一矢報いるも相手投手を攻略できず大敗を喫した。大



先発を志願し、稲本会員とのベテランコンビで相手打線を封じ込め梶会員がエースとしての貫禄を表し、相手打線をピシヤリと抑え、和歌山神青との二戦を大勝で飾る。

決勝は大阪府神青対奈良神青と、昨年と同カードでの対戦。奈良神青は近年決勝戦では、苦汁を飲まされ今年こそは！と猛練習に励んでいたそう。

その成果か、新加入の大神神社のエース宮崎君を中心に、若手打線が奮闘し大阪神青打線を全く寄せ付けなかつた。大量リードを得た奈良神青がそのまま逃げ切り、見事念願の優勝旗を手にした。長年京都、大阪と古豪チームを渡り歩いてきた優勝旗であったが、若手を中心とした奈良神青に譲る結果となった。世代交代の波を感じた野球大会であった。

(北野天満宮 川村亮滋)

今回の野球大会にて

「投げる・打つ・捕る」全てに卓越した技術をもつ稲本先輩常にチームへの配慮を忘れない「ムードメーカー」溝脇先輩が野球部を引退された。

また、部員から絶大な信頼を寄せられ、長年チームを率いてこられた高松監督も監督退任の意を表明されており、冬には高松監督から稲本新監督へバトンが託される。

次回の野球大会では、優勝旗を京都へ持ち帰るべく稲本新監督の下、チーム一丸となって楽しくやっつけてほしいと思う。

頑張れ、野球部。

(御嶽教末廣教会 北川真喜子)



平成二十九年度第一回連絡会 並びに研修会

九月四日、湊川神社楠公会館に於いて平成二十九年度第一回連絡会並びに研修会が開催されました。

連絡会に先立ち開催された研修会では、一般社団法人つぐみ咲くプロジェクト代表理事を務めておられる森日和先生による『日本のところを子供達へく伝統を引き



継ぎ未来へ託す』と題した講演会を賜った。神話や物事ひとつひとつに命をみる日本人の感性を主題とした紙芝居や絵本の読み聞かせなど、子供達への神道教化の進め方、目に見えないものをどう伝えていくべきかなど伝える術を教えてくださいました。

連絡会では皇室敬慕の念を一層大切に、平成三十年に向けて



近畿地区の神道青年会同士がこの連絡会の意味を噛み締め一つになつていけるようにと田中会長が挨拶された後、中央報告・神道協特別委員会報告・近畿地区事業委員会報告・各単位の活動報告がなされました。

その後、懇親会では「近畿はー！ひとっ！」の発声をもって乾杯し、近畿二府四県の神職達が懇親を深める時間となりました。

(御嶽教末廣教会 北川真喜子)

皇室関連施設清掃奉仕



恒例の神道青年近畿地区連絡協議会、指定事業でもある皇室関連施設清掃奉仕が九月二十八日に京都御所において参加会員三十一名にて実施されました。前日は小雨で心配しておりましたが、当日の朝には雨も上がり曇天の中ではありませんでしたが清掃奉仕することができました。

今回は宮内庁京都事務所のご厚意から、九年ぶりに京都御所の清掃奉仕をさせて頂ける事となり、大変に貴重な経験をさせて頂きました。

参加会員は、それぞれ箕手を持ち小



間程、宮内庁京都事務所職員の方の案内して頂きました。参加会員は、興味深い説明に耳を傾けておりました。

再び待機所(休憩所)にて着替えを済ませ、参加者を代表して神道青年近畿地区連絡協議会田中中国男会長より宮内庁京都事務所職員の方へ御礼の挨拶をさせて頂き清掃奉仕は修められました。

その後、午後四時半よりホテル平安の森京都にて懇親会が開催され他府県の会員との親睦、また氏子青年連合会の皆さまとの親睦も深められ、終始和やか



しました。「少しでも清浄な場に」という会員の皇室に対する強い崇敬の念で奉仕をさせて頂き、その場も段々と白く清々しい様になりました。

その後、ご厚意により京都御所を一時

な雰囲気の中、盛会の内に散会となりました。最後に、清掃奉仕の受け入れ、また準備や当日の対応を快く引き受けて下さった宮内庁京都事務所関係各位には篤く御礼申し上げます。

(藤森神社 本石暖迪)

第二十三回全国戦歿学徒追悼祭



台風二十一号の迫り来る十月二十一日、兵庫県南あわじ市にあります若人の広場公園にて、第二十三回を数える全国戦歿学徒追悼祭が午前十一時に斎行されました。

追悼祭は、神道青年近畿地区連絡協議会の田中国男会長を斎主として、祭員、典儀、伶人を含む総勢十七名の奉仕により斎行されました。当会からは向日神社の六人部是充会長と石清水八幡宮の浄見僚会員が祭員として奉仕致しました。

この全国戦歿学徒追悼祭は昭和十八年、明治神宮外苑で行われま

した「出陣学徒壮行会」の日に合わせ毎年行われておりますが、今回はその学徒出陣の日の様な大粒の雨の降りしきる中での追悼祭となりました。



祭典に先立ち、まず全国戦歿学徒を追悼する會幹事長の伊弉諾神宮本名孝至宮司様から挨拶を戴き、雨音さえ吹き飛ばしてしまおうくらいの参列者による国歌斉唱の後、追悼祭が行われました。



追悼祭では、海上自衛隊徳島教育航空群徳島航空基地隊喇叭隊の喇叭吹奏、神楽「みたま慰めの二人舞」の奉奏、福田寺住職による般若心経の読経、キリストの幕屋による賛美歌奉唱など、宗教の垣根を越えての追悼祭はまさにこの日本の国柄を表すかのような素晴らしい追悼祭となりました。

私も以前に祭員としてご奉仕させて頂き、また今回は参列者として二度目の追悼祭となりました。若くして戦場に赴かれた

學徒の英霊に感謝と追悼の念を改めて感じさせて頂きました。

(護王神社 高田真之介)



中央報告

硫黄島訪島並びに慰霊事業に参加して

八月二十一日から二十二日にかけて、硫黄島戦没者慰霊行事に神青協出向理事として参加してきました。



硫黄島は大東亜戦争末期、本土防衛の最前線となつた激戦地です。未だ二万二千柱余りの遺骨が埋もれ残されたままであるという硫黄島の現状を視察し、故郷から遠く離れた絶海の孤島で散つていった英霊に慰霊の赤誠を捧げられる、またとない機会に恵まれました。

民間人の入島は原則認められておらず、本事業も内閣府・防衛省・自衛隊の後援を仰ぎ、航空自衛隊の輸送機で入島いたしました。島内に入ると、硫黄の臭いが漂い、平地は不気味な火山灰が覆い、海洋性亜熱帯気候の高温が容赦なく体力を奪っていきます。栗林忠道中将が示そうとした鬼神を哭しむる死者の魂や天地の神々をも慟哭せずにはおかないような凄惨な戦場。砲身に敵の砲弾がめり込

た激戦地です。未だ二万二千柱余りの遺骨が埋もれ残されたままであるという硫黄島の現状を視察し、故郷から遠く離れた絶海の孤島で散つていった英霊に慰霊の赤誠を捧げられる、またとない機会に恵まれました。

む鉄錆びた一四糎水平砲が静かに佇み、摺鉢山には日本軍・米軍の慰霊碑が所狭しと並び、哀切な戦いぶりが今もまざまざと目に浮かぶかのような場所でした。「神式の慰霊行事の風景は一般には出さない」と申し送りがあるため、慰霊行事の写真は掲載出来ませんが、青年神職によって英霊に哀悼の誠が捧げてきたことをご報告いたします。

兵団司令部壕に生えた内地では見ない亜熱帯地域独特の珍しい草に目を奪われました。

醜草しきくさの島はびに蔓はびるその時の 皇国みくにの行手一途に思ふ

栗林中将(後に硫黄島守備の功績により大将に叙せられる)辞世の一句です。皇国の行手を一途に思つて、敵陣に突撃して果てた英霊に伝えるために何を為すべきか。私たちの使命はなんだろうか。そのことが問われているように感じた事業となりました。

(石清水八幡宮 浄見 僚)

夏期セミナー (神道青年全国協議会主催)

神社本庁に於いて八月三十・三十一日の二日間にわたり、「平成二十九年度神道青年全国協議会夏期セミナー」が受講者約百五十名のもと、主題を「日本の心を紡ぎ伝える」〜私たちの使命〜として、日本の未来を担う青年神職としての素養を高め、力強く地域社会に発信し行動することが出来る、また日本の伝統を継承し後世に伝えていく事を目的に開催された。

中央報告

硫黄島訪島並びに慰霊事業に参加して

八月二十一日から二十二日にかけて、硫黄島戦没者慰霊行事に神青協出向理事として参加してきました。



硫黄島は大東亜戦争末期、本土防衛の最前線となつた激戦地です。未だ二万二千柱余りの遺骨が埋もれ残されたままであるという硫黄島の現状を視察し、故郷から遠く離れた絶海の孤島で散つていった英霊に慰霊の赤誠を捧げられる、またとない機会に恵まれました。

民間人の入島は原則認められておらず、本事業も内閣府・防衛省・自衛隊の後援を仰ぎ、航空自衛隊の輸送機で入島いたしました。島内に入ると、硫黄の臭いが漂い、平地は不気味な火山灰が覆い、海洋性亜熱帯気候の高温が容赦なく体力を奪っていきます。栗林忠道中将が示そうとした鬼神を哭しむる死者の魂や天地の神々をも慟哭せずにはおかないような凄惨な戦場。砲身に敵の砲弾がめり込

た激戦地です。未だ二万二千柱余りの遺骨が埋もれ残されたままであるという硫黄島の現状を視察し、故郷から遠く離れた絶海の孤島で散つていった英霊に慰霊の赤誠を捧げられる、またとない機会に恵まれました。

特別講演では、「感謝の心をつなぐ」と題し三笠宮彬子女王殿下にご講義を賜った。ご講義の内容は、平成二十四年に設立されご自身が総裁を務める子供たちに日本の文化を伝えることを目的とした団体「心游舎」での実際にご活動された時のご経験をもちに、今の日本は大量生産・大量消費が当たり前になっており、日本で手回ひまかけた手仕事や師匠から弟子へと受け継がれてきた芸能は若者にとって経験したことのない非日常になってきており、そのことを少しでも多くの子供たちに伝えていきたい。のお話であった。

第一講では、「宮中祭祀とその概要と変遷」と題し元宮内庁掌典の山田蒼先生にご講義を賜った。ご講義の内容は、古来天皇を中心として歴史を紡ぎ伝統文化を築き上げてきた我が国において、いつの時代も天皇陛下が国民の安寧と幸せを祈り続けておられ、我々はこの上なき有難き大御心を戴いているということをご講義を戴いた。

第二講では、「皇室の制度と歴史」現行皇室典範の課題から」と題し國學院大學准教授藤本頼生先生にご講義を賜った。

昨年八月八日、天皇陛下は「象徴としてのお務めについて」ビデオメッセージを表され国民に広く語られた。国民と喜びや悲しみを共有し、常に安寧と幸せを祈り国民に寄り添ってこられたことなどのお言葉に対し、皇室の歴史を踏まえてどのように対応していくべきかをご講義賜った。

これらのご講義は我々神職は知っていなければならぬことであることはもちろんのこと、日本人の心を持つ人、つまり全ての国民に知ってもらわなければならないと感じた。

(石清水八幡宮 梶 貴嗣)

新入会員紹介

- ①氏名 ②生年月日 ③出身地
- ④奉職先神社 ⑤六人部会長の第一印象



- ①長谷川 貴啓
- ②昭和五十二年八月三日
- ③京都府
- ④八幡宮



- ①杉本 裕一
- ②昭和五十三年九月十三日
- ③三重県
- ④野宮神社
- ⑤素敵な殿方



- ①陳 保吉
- ②平成六年六月二日
- ③台湾台北市
- ④貴船神社
- ⑤三十六歳とは思えぬお顔つきですが、優しさが感じられます。



- ①小野 政福
- ②平成六年一月二十七日
- ③島根県
- ④賀茂別雷神社
- ⑤メガネの似合う人



- ①宮田 雄生
- ②平成六年三月十日
- ③長崎県
- ④石清水八幡宮
- ⑤皆に愛される人



- ①西館 徳史
- ②平成二年九月四日
- ③岩手県
- ④石清水八幡宮
- ⑤朗らかな方だなと感じました



- ①大小島 尊之
- ②平成六年三月十五日
- ③北海道
- ④吉田神社
- ⑤面白そう、ノリが良さそう、周りを明るくさせそう



- ①河田 達郎
- ②平成六年五月二日
- ③岐阜県
- ④八坂神社
- ⑤大らかで優しい印象です。



- ①工藤 倭
- ②平成六年十一月二十五日
- ③青森県
- ④伏見稻荷大社
- ⑤知的な人



- ①米川 安世
- ②平成六年九月二十三日
- ③京都府
- ④北野天満宮
- ⑤真面目そうなたと思いましたが、この前の親睦BBQ大会で少しお話しをさせていただきましたところ、とても話しやすい人だと感じました。またの機会にぜひ「六人部節」を聞いてみたいです。



- ①威徳寺 秀洸
- ②平成五年十月六日
- ③京都府
- ④北野天満宮
- ⑤見た目通りすごく真面目な方だと思いました。まだしっかりと話したことがないため、ゆっくりとお話したいと思いました。



- ①米山 裕貴
- ②平成七年一月十日
- ③山梨県
- ④賀茂別雷神社
- ⑤優しい方なんだろうなと思いました